

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	管理栄養学科					
科目名称	臨床医学 I						授業形態	講義		
科目コード	309702	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員	○	アクティブラーニング		
担当教員名	河野 清香								ICT活用	
授業概要	<p>本授業の目的は疾患の病態生理について学ぶ事である。</p> <p>1年生で履修した「からだと疾病Ⅰ・Ⅱ」で修得した解剖学・生理学の知識をもとに各疾患の成り立ちについて学修していく。管理栄養士として学習すべき疾患について、病態生理、自覚症状、診断方法、治療法を系統的に学ぶことが大切であるが、この科目では、病態生理（どのような理由でその疾患がおきるのか）に重点をおいて学修する。臨床医学において、栄養学に基づいた食事療法は、全ての疾患の基本的な治療法であり、更に、個別の疾患ごとの栄養について深く学習する「臨床栄養学」の基礎になる科目でもある。</p> <p>また、病気発症のメカニズムを理解しておくこと、「臨床医学Ⅱ」で学ぶ各疾患の症状や検査データの異常が理解しやすくなる。</p> <p>医学は日々進歩するが、病院での実務経験のある教員による講義なので、最新の医学情報を学ぶことができる。</p>									
関連する科目	<p>本授業の履修前に受講することが望ましい科目：からだと疾病Ⅰ、からだと疾病Ⅱ</p> <p>本授業の履修後に受講することが望ましい科目：臨床医学Ⅱ、臨床栄養学Ⅰ～Ⅳ</p>									
授業の進め方と方法	<p>各疾患の病態生理について講義をする。基本的にはパワーポイントを使用して講義する。</p> <p>必要に応じて、テキストの内容を補うための資料プリントを配布する。</p>									
授業計画【第1回】	<p>1. 疾病の原因・診断</p> <p>疾病の原因、症候、診断の概要について学ぶ。</p>									
授業計画【第2回】	<p>2. 疾病の治療</p> <p>一般的な疾病の診断法（生化学的検査、画像検査などの臨床検査）や治療法（薬物療法、手術療法、放射線療法）を学習する。</p>									
授業計画【第3回】	<p>3. 栄養障害・肥満・代謝疾患の病態生理</p> <p>栄養障害・肥満・代謝疾患(糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、痛風など)の病態生理を中心に学ぶ。</p>									
授業計画【第4回】	<p>4. 消化器疾患（食道、胃、小腸、大腸）の病態生理</p> <p>消化器疾患(食道、胃、小腸、大腸)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。</p>									
授業計画【第5回】	<p>5. 消化器疾患（肝・胆・膵）の病態生理</p> <p>消化器疾患(肝・胆・膵)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。</p>									
授業計画【第6回】	<p>6. 循環器疾患の病態生理</p> <p>循環器疾患(狭心症や心筋梗塞など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。</p>									
授業計画【第7回】	<p>7. 腎・泌尿器疾患の病態生理</p> <p>腎・泌尿器疾患の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。</p>									
授業計画【第8回】	<p>8. 内分泌疾患の病態生理</p> <p>内分泌疾患(甲状腺疾患など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。</p>									
授業計画【第9回】	<p>9. 神経疾患の病態生理</p> <p>神経疾患(脳血管障害や認知症など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。</p>									
授業計画【第10回】	<p>10. 呼吸器疾患の病態生理</p> <p>呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。</p>									

授業計画 【第11回】	11. 運動器疾患の病態生理 運動器疾患(骨粗鬆症など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。
授業計画 【第12回】	12. 生殖器疾患の病態生理 生殖器疾患(子宮・前立腺疾患など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。
授業計画 【第13回】	13. 血液疾患の病態生理 血液疾患(貧血など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。
授業計画 【第14回】	14. 免疫・アレルギー疾患の病態 免疫・アレルギー疾患(自己免疫疾患や食物アレルギーなど)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。
授業計画 【第15回】	15. 感染症疾患の病態生理 感染症疾患を引き起こす病原微生物、感染経路など、感染症疾患の病態生理を中心に学ぶ。
授業の到達目標	病気が発症するには必ず理由がある。 1年生時に学習した解剖学、生理学の知識をもとに、病気が発症するメカニズムを理解できるようになる。 病気発症メカニズムを理解しておくこと、臨床医学Ⅱで勉強する各疾患の症状や検査データの異常が理解しやすくなる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	〈予習〉1年生で学修した「からだと疾病Ⅰ、Ⅱ」のプリントや教科書を読んで予習をすること。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	〈復習〉授業で習った内容を、教科書を読んでしっかり理解すること。(最低1時間)
課題に対する フィードバック	期末試験は採点して返却する。
評価方法・基準	定期テスト(80点)、課題・小テストなど(10点)、授業態度(10点)
テキスト	疾病の成り立ち:臨床医学 [第5版](Nブックス) 編著 田中明・加藤昌彦 建帛社
参考書	病気がみえるシリーズ(全11巻) 医療情報科学研究所 (図書室にあります。)
備考	